資料３

蚊媒介感染症対策について

デング熱の国内発生、中南米におけるジカウイルス感染症の流行を踏まえ、本県における蚊媒介感染症発生時に迅速に対応するため、行動計画策定に基づく対策を報告します。また、県内のリスク地点の選定について協議します。

１　蚊媒介感染症に関する経緯

国際的な人の移動の活発化に伴い、海外から持ち込まれる事例が増加し、デング熱などの「蚊媒介感染症」の国内での発生が継続的に報告されており、平成２６年８月には、デング熱の国内感染患者が、約70年ぶりに報告されています。

国は、平成27年４月に「蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針」を策定するとともに、「デング熱・チクングニア熱等蚊媒介感染症の対応・対策の手引き」及び「デング熱・チクングニア熱の診療ガイドライン」を改定しました。

２　岩手県蚊媒介感染症対策行動計画の策定（平成27年７月31日）

(1) 基本的な考え方

・関係者及び県民一人一人が連携して予防に取り組むことが基本
・県等は施策の検討及び評価を行う体制を整備
・平常時から蚊媒介感染症について情報の収集及び分析
・医療機関に向けた情報発信の強化等を図ることが重要
・蚊媒介感染症や媒介蚊に関する幅広い知識や技術を有する人材を養成

(2) 計画の目標

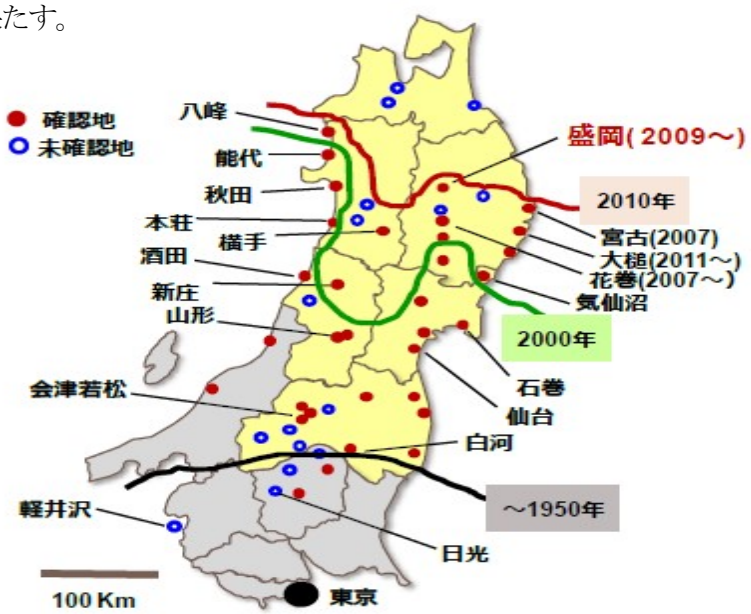
感染症の媒介蚊であるヒトスジシマカが発生する地域における対策を講じ、蚊媒介感染症の発生予防とまん延の防止を図る。

３　発生段階の考え方及び推進体制、各主体の役割と連携

(1) 発生段階の考え方：対策をより効果的なものとするため「県内未発生時」、「県内発生時」の２段階。

(2) 対策推進体制：「岩手県蚊媒介感染症対策会議」を設置し、研修の場として活用
メンバーは、感染症・媒介蚊の専門家、医療関係者、市町村担当者、蚊防除事業者等

(3) 各主体の役割と連携：県等、市町村、医療機関、施設管理者及び県民の各主体が互いに連携・協力し、それぞれの役割を果たす。



【図：東北地方における
ヒトスジシマカの分布域】

【報告】平成28年度　蚊媒介感染症シンポジウムの開催について

１　目的

70年ぶりのデング熱の国内流行や、中南米を中心としたジカウイルス感染症の流行など、「蚊媒介性感染症」は現在、世界的な健康課題となっています。

また、蚊媒介感染症をはじめとした人獣共通感染症を防いで人と動物の健康を維持するため、医師と獣医師が密接に連携し、安全・安心な社会の構築を目指す必要があります。

そこで「人と動物の健康は一つ＝“One Health”」の理念のもと、県民へ正しい知識の普及啓発を行うことを目的とし、蚊媒介性感染症シンポジウムを開催しました。

２　主催等

主催：岩手県保健福祉部医療政策室

共催：一般社団法人岩手県医師会、一般社団法人岩手県獣医師会

３　開催日時

平成28年7月20日（水）13：30～15：00

４　会場

岩手県医師会館４階大ホール（盛岡市菜園二丁目８番20号）

５　参加者

１２６名

一般県民　３５名、医師　２名、獣医師　５４名、行政担当者等　３５名

６　内容等

○講演

・基調講演：「人と動物の健康は一つ“One Health”」

一般社団法人岩手県獣医師会　会長　　多田　洋悦　氏

・講演：「流行の状況と国内発生に備えて」

特定医療法人清和会（奥州病院）理事長　　佐藤　芳邦　氏

・情報提供：「岩手県の病原体検査体制について」

岩手県環境保健研究センター上席専門研究員　佐藤　直人　氏

○パネルディスカッション「岩手県における蚊媒介感染症の現状と課題」

＜パネリスト＞：医療、獣医療、蚊対策の各分野から

・特定医療法人清和会（奥州病院）理事長　　佐藤　芳邦　氏

・一般社団法人岩手県獣医師会会長　　多田　洋悦　氏

・一般社団法人岩手県ペストコントロール協会　　沼山　祐司　氏

＜コーディネーター＞：

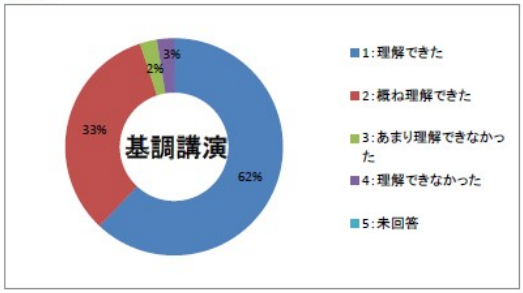
岩手県保健福祉部　副部長兼医療政策室長　　野原　勝

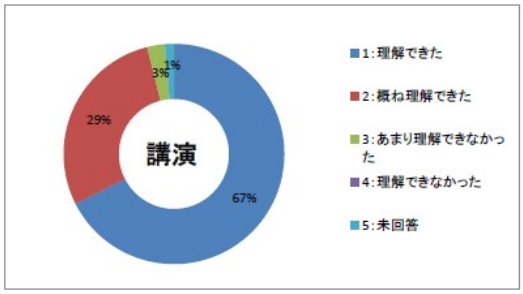
７　結果（アンケート調査抜粋）

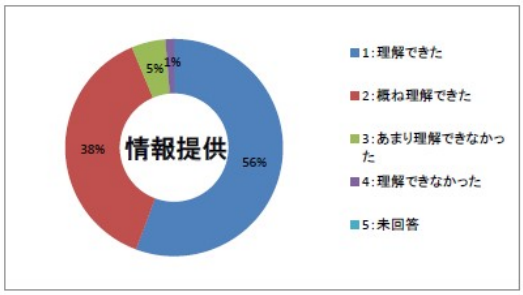
・満足度：91％

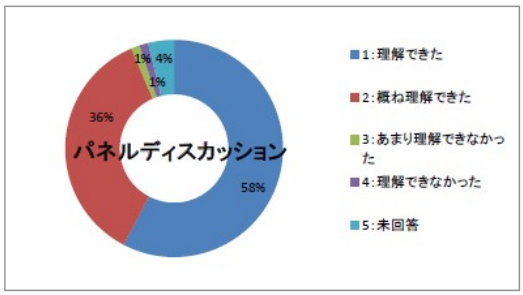
・理解できた（概ね理解できた）：95％

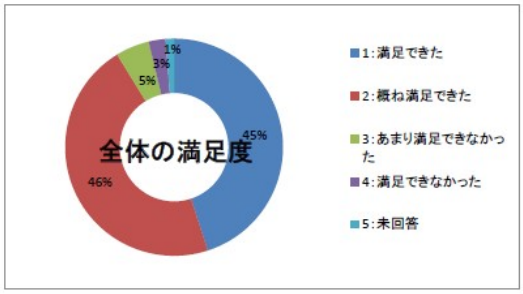
全体

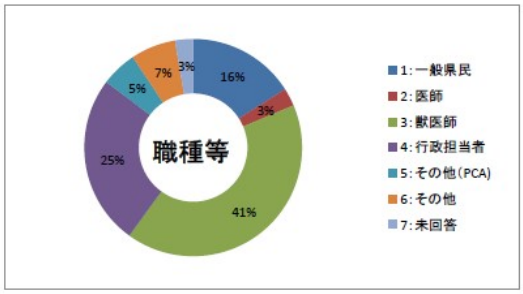




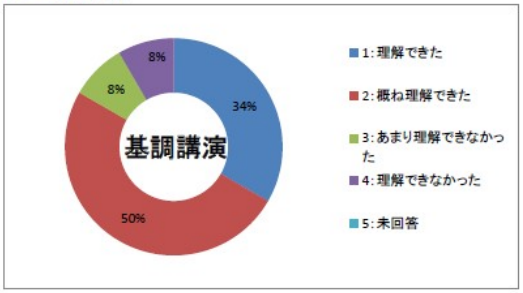


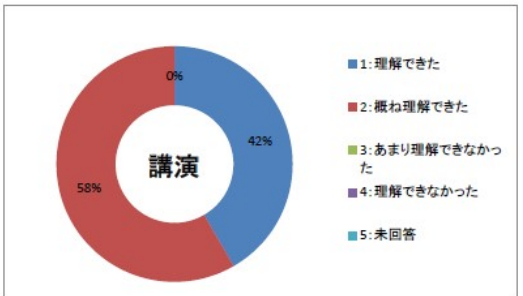


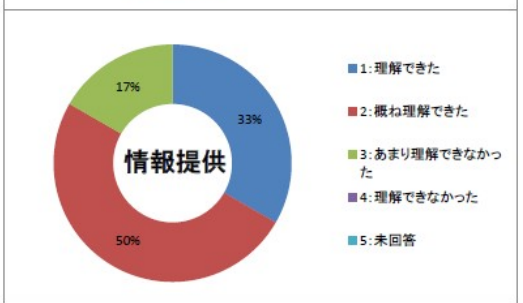


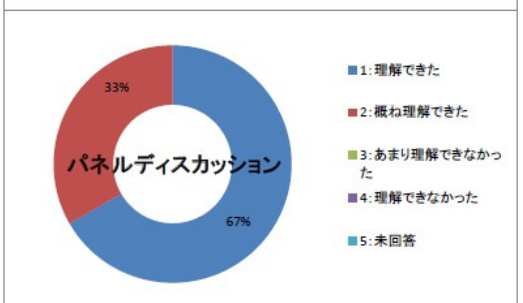


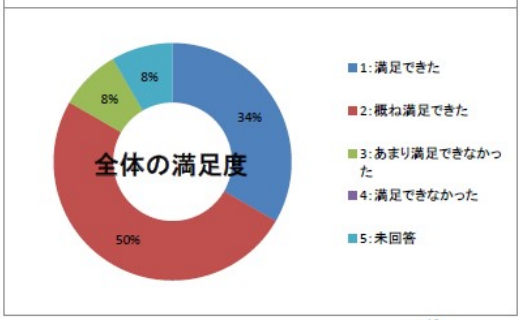
1:一般県民











n=12

・理解しやすい講演・講話だった。
・季節にマッチした内容でとてもよかった
・どうもありがとうございました。
・普段聞けない話が聞け、勉強になった。

・くわしい、わかりやすい資料が欲しかった
・トータル時間が少なかった

n=75

【協議】　蚊媒介感染症の対応・対策に係るリスク地点の選定について

１　リスク地点とは

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（ 平成10年法律第114号）第11条第1項の規定に基づき、**蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針**を策定（平成27年4月28日告示）

指針では、都道府県は「リスク評価の結果注意が必要であるとされた地点（リスク地点）」において、ヒトスジシマカの発生状況の継続的な観測や媒介蚊の対策等を実施することとされています。

２　リスク地点の選定について

国立感染症研究所が策定した「デング熱・チングニア熱等蚊媒介感染症の対応・対策の手引き」では、リスク地点は、次の２つの項目に該当する屋外の施設であるかどうかを検討し選定することとなっており、２つの項目にともに該当する施設があった場合は、蚊の生息好適地（幼虫発生源及び成虫の潜み場所）があるかどうかも加味して、総合的にリスク地点を決定することとなっています。

【リスク地点の選定項目】

① **ウイルス流入の機会**：成虫の活動時期である５月中旬から10月下旬にデング熱・チングニア熱、ジカウイルス病の流行地から多くの人が訪れることが予測されるかどうか。（注：同流行地からの人であるかどうかの特定が難しい場合は、単に外国人観光客が多いということで代用することもやむを得ない。）

② **感受性者の暴露機会**：長時間滞在する者や頻繁に訪問する者（例：ジョギング、犬の散歩等）が多いかどうか。または、５月中旬から10月下旬に大勢の人が集まるイベント等が開催されることが多いかどうか。

３　岩手県におけるリスク地点の選定について

『岩手県ではリスク地点の選定は行わない』

－理由－

岩手県の状況をリスク地点の選定項目に照らし合わせて検討したところ、該当しないと判断したため。

（県内に、平成27年度にデング熱の感染が認められた日比谷公園（東京都）に類似する環境がない）

① **ウイルス流入の機会**→△

・流行地（海外を想定）からの訪問者が多数訪れることが予想されない。

→台湾チャーター便就航等、外国人観光客数は増加傾向にあるもののアジアからの訪問者が多い。

（南米、東南アジア等の流行地からの訪問は少ない）

② **感受性者の暴露機会**→該当なし

・県内の施設等で、長時間滞在する者や頻繁に訪問する者が多い施設等に該当するものがない。

・大勢の人が集まるイベント等が開催される機会が少ない。

・一般的に同施設は整備されており、蚊が発生・生息する藪等の環境は少ない。

４　その他

「蚊類の生息地分布調査」（環境保健研究センター地球科学部）は継続予定であり、その結果を注視していくとともに、引き続き、幼虫の発生源である身近な水たまりをなくす等、県民向けの情報発信を継続していく予定。